

## 「日本ニュース」の研究 —映画法統制下の 1940 年から 1945 年を中心に—

田中建蔵

ニュース映画とは時事問題などに関して情報の伝達や解説をおこなう短編記録映画のこととされている。日本では 1939 年に制定された映画法によって 45 年までニュース映画は強制上映されていたため、当時唯一のニュース映画であった「日本ニュース」は戦時下の人々に大きな影響を与えていたと考えられる。しかし、映写に伴う技術的困難などにより、これまで「日本ニュース」の研究は多く行われてこなかった。その後、デジタルアーカイブの構築によって「日本ニュース」を取り巻く状況は大きく変化している。そこで、本研究では、映画法が施行され「日本ニュース」の公開が始まった 1940 年 6 月から第二次世界大戦終結直後の 1945 年 9 月までの全 1265 トピックを対象に、「地域」、「題材」、「人物」の観点から「日本ニュース」の調査及び内容分析を行い、考察を行った。

調査の結果、「日本ニュース」で取り上げられた地域の比率については、「アジア地域」の 46.5%が最も高く、続いて日本及びその領有地域の 44.7%であった。「日本ニュース」で取り上げられた「題材」の比率は、「軍事」の 42.5%が最も高く、続いて「社会」の 21.6%であった。「日本ニュース」で取り上げられた人物の比率は、「軍人」の 40.8%が最も高く、続いて「市民」の 12.4%であった。

考察の結果、①「日本ニュース」は、全体的には必ずしも戦場の様子を報道するためだけのものではなく、国内の戦争以外の題材も多く含まれており、これらは戦時下の日本社会の様相を伝える史料としての価値を有していること、②事件や事故の報道よりも、集会や儀式など予定が分かっている題材が中心であったこと、③昭和天皇は「日本ニュース」の映像の中では常に軍服姿で登場していたが、ナレーションでは「大元帥」と「天皇陛下」の呼称で呼ばれており、その両者はナレーション中では区別して使われていたこと、④1940 年から 45 年の「日本ニュース」における女性像は、「家庭」にいる存在から「家庭」から離れて「代替労働力」として働く存在に変化して描かれていたということ、⑤子供は「日本ニュース」においては、41 年時点では補助的な労働力としてしか描かれていなかったが、43 年になると労働力不足を背景に子供も大人と同じ労働力として期待されるようになったと考えられること、が分かった。

本研究で明らかとなった、「日本ニュース」が有する戦時下の日本社会の様相を伝える史料としての価値、とりわけ「女性」と「子供」についての年次推移と内容変化は、今後、「日本ニュース」の史料的価値を研究する際に、示唆を与えるものになると考えられる。

(指導教員 辻泰明)